5. セミナー

5-（1）セミナー告知サイト LP

https://project.nikkeibp.co.jp/bpi/seminar/19/jmext2025/semi/



超少子高齢化や人口減少が進み、産業や社会構造の変化、グローバル化が進展する我が国において、経済社会の一層の発展を期すためには、経済再生の先導役となる中核的役割を果たす専門人材の養成が必要不可欠です。

特に地域産業の発展を支える中核的な人材養成機関として、専修学校には産業構造の変化や各地域のニーズ等に対応した実践的な職業教育を行うことができるよう、中長期的な人材育成に向けた協議体制の構築やこれからの時代に対応した教育プログラム等の開発が求められています。

そのため、文部科学省では、新たな社会的ニーズに応じた専門的職業人材を育成するため、専門学校と高等学校、教育委員会等の行政及び企業の四者によるコンソーシアムを構築し、高等学校入学から就職までを見据えた教育活動に対して関係企業による全面的な支援が得られる教育プログラム等を開発するモデルを構築しています。

本セミナーでは、こうした専門学校と高等学校を有機的に接続した、高・専一貫の教育プログラム等の開発に向けたさまざまな取り組みと、高等学校や専門学校での実証授業などの成果を発表していただき、地域での定着や教育プログラムの水平展開に向けた課題を整理します。

なお、昨年度の取組については下記をご覧ください。
専修学校による地域産業中核的人材養成事業　受託団体の取り組み【事例集】

専修学校や高等学校などにお勤めの教育関係者の皆様、教育委員会など教育行政に携わる皆様、また企業や団体の経営層や専修学校卒業生の採用ご担当者の皆様には、ぜひご視聴いただきたく、お申し込みをお待ちしております。

開催概要

開催日時 【第1回】2026年1月14日（水）16:00～18:00
【第2回】2026年1月15日（木）16:00～17:45
【第3回】2026年1月16日（金）16:00～17:45

開催方法 Zoomによるオンライン形式

受講料 無料（視聴には事前登録が必要となります）
※1回のご登録で、3日間ともご視聴いただけます。

受講対象 専修学校、高等学校、教育委員会、自治体関係者、企業や団体の経営層、専修学校卒業生の採用ご担当者ほか

定員 各回200名

主催 日経BP 総合研究所

本セミナーは、文部科学省 令和7年度 委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の一環として、日経BPが受託して開催するものです。

【Zoomの視聴にあたって】
① 日経BPは、Zoom上では個人情報を収集しません。
② 視聴に必要なURLは、配信前日までに登録いただいたメールアドレス宛へご案内メールにてご案内します。視聴用URLはセミナーに参加する方のみ利用可能とし、再配布は行わないようお願いします。
③ 動画の録画、キャプチャー及びSNSなどへのアップはお控えください。
④ チャットの内容や視聴者の個人情報（会社名など）は口外、公開しないでください。
⑤ 動画／音声に乱れが生じた場合の再配信や動画視聴に関わる技術サポートはできかねますのでご了承ください。
⑥ 異常と思われる接続を見つけた場合、予告なく切断することがあります。

プログラム

16:00～16:03 **開会ごあいさつ**

文部科学省 総合教育政策局　生涯学習推進課　専修学校教育振興室第二係

16:03～16:10 **本日登壇する受託団体の取組の紹介**

高橋 健太朗　日経BPコンサルティング ビジネスサポート事業統括補佐

16:10～17:40 **今年度の取り組みと成果、今後の取り組み**

1月14日のみ、16:10～17:58

【コメンテーター紹介】

植上 一希氏　福岡大学人文学部教授
渡邊 隆彦氏　専修大学商学部教授
成田 兵衛氏　開志専門職大学　アニメ・マンガ学部 学部長／教授
廣田 拓也氏　地域・教育魅力化プラットフォームコンソーシアム事業 マネージャー
佐藤 昭宏氏　ベネッセ教育総合研究所 学習科学研究室 室長
上門 大介氏　学校法人川島学園 鹿児島実業高校 教諭
高橋 健太朗　日経BPコンサルティング ビジネスサポート事業統括補佐
高津 尚悟　日経BP 総合研究所 リサーチユニット編集

【1月14日（水）】6団体

小山学園　専門学校 東京工科自動車大学校
沖縄専門人材開発研究会
東京リーガルマインド
日本航空学園日本航空大学校　北海道
ＫＢＣ学園　インターナショナルリゾートカレッジ
ＫＢＣ学園　沖縄ペットワールド専門学校

【1月15日（木）】5団体

穴吹学園
国際総合学園　新潟会計ビジネス専門学校
宮崎総合学院　宮崎情報ビジネス専門学校
日本eスポーツ学会
京都コンピュータ学園　京都コンピュータ学院京都駅前校

【1月16日（金）】5団体

西野学園　札幌心療福祉専門学校
栗山町立北海道介護福祉学校
智帆学園　琉球リハビリテーション学院
仙台北学園　仙台リハビリテーション専門学校
福岡歯科衛生専門学校


17:40～
事務連絡 / 閉会 (17:45終了予定、1月14日のみ18:00終了予定)
1月14日のみ、
17:58～
※終了時刻は変更になる場合もございます。予めご了承ください。
■日経IDについて
本イベントへのお申し込みには、「日経ID」への会員登録（無料）が事前に必要となります。
すでに会員の方は、ログイン後、ご登録内容をご確認のうえお申し込みください。
未登録の方は、画面の指示にしたがい、ご登録をお願いいたします。
お申し込みはこちら
日経BP
Copyright © Nikkei Business Publications, Inc. All Rights Reserved.

5-（2）セミナー各コンソーシアム発表資料

- 学校法人穴吹学園
- 学校法人 KBC 学園　インターナショナルリゾートカレッジ
- 一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会
- 学校法人 KBC 学園　沖縄ペットワールド専門学校
- 学校法人小山学園　専門学校 東京工科自動車大学校
- 一般社団法人日本ｅスポーツ学会
- 学校法人宮崎総合学院　宮崎情報ビジネス専門学校
- 学校法人京都コンピュータ学園　京都コンピュータ学院京都駅前校
- 学校法人国際総合学園　新潟会計ビジネス専門学校
- 学校法人西野学園　札幌心療福祉専門学校
- 学校法人仙台北学園　仙台リハビリテーション専門学校
- 学校法人智帆学園　琉球リハビリテーション学院
- 公益社団法人福岡県歯科医師会立　福岡歯科衛生専門学校
- 株式会社東京リーガルマインド
- 学校法人日本航空学園 日本航空大学校北海道
- 北海道栗山町 栗山町立北海道介護福祉学校

（穴吹学園）

anabuki college group



学校法人穴吹学園

専修学校による
地域産業中核的人材養成事業

高専連携センター　森川和哉

anabuki college group

事業概要（文部科学省HP）より

専修学校による地域産業中核的人材養成事業

令和6年度予算額　952百万円
（前年度予算額　1,103百万円）

背景・課題

◆ 産業や社会構造の変化、グローバル化等が進む中で、経済社会の一層の発展を期すためには、経済再生の先導役となる産業分野の雇用拡大や人材移動を円滑に進めるとともに、個人の可能性を最大限発揮し、日本再生・地域再生を担う中核的役割を果たす専門人材の養成が必要不可欠。

◆ また、実際の教育現場では、専門学校における学びの質を高めるため、より早い時期からキャリア意識、専門知識を涵養できるようなアプローチが必要との声がある。

経済財政運営と改革の基本方針2022（令和4年6月7日閣議決定）

第２章　新しい資本主義に向けた改革
１．新しい資本主義に向けた重点投資分野
（１）人への投資と分配
（質の高い教育の実現）
・人への投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資するため、デジタル化に対応したイノベーション人材の育成等、大学、高等専門学校、専門学校等の社会の変化への対応を加速する。

事業概要　専修学校等に委託を行い、各職業分野において今後必要となる新たな教育モデルを形成するとともに、各地域から人的・物的協力などを得ることでカリキュラムの実効性、事業の効率性を高めつつ、各地域特性に応じた職業人材養成モデルを形成する。

これからの時代に求められる多面的・重層的な諸課題に対応したプログラムの開発

中等教育段階から高等教育段階（専門学校）への接続

新たな社会的ニーズに応じた専門的職業人材を育成するため、専門学校と高等学校、教育委員会等の行政及び企業が協働で、高・専一貫の教育プログラムを開発するモデルを構築。コーディネーターを中心に、高等学校と専門学校が出口を見据えた一貫したカリキュラムを開発。分野横断連絡調整会議において、モデル間の横串を刺し、体系的に成果を整理、普及・定着方策を検討。

（モデル：16か所×23百万円）
（連絡調整会議：1か所×29百万円）

高等教育段階（専門学校）における職業教育の高度化

各業界・分野でDX（デジタルトランスフォーメーション）に求められる知識や技能を専修学校と業界団体とが連携して明らかにするとともに、効率的にそれらを習得することができるモデルカリキュラムを構築。専修学校におけるDX人材養成の実態や取組状況について全国的な調査を行うほか、分野横断連絡調整会議においてモデル間の横串を刺し、体系的に成果を整理、普及・定着方策を検討。

（モデル：20か所×25百万円）
（調査研究：1か所×24百万円）
（連絡調整会議：1か所×28百万円）

キャリア意識、専門知識の涵養　**専修学校教育の質の向上**

アウトプット（活動目標）
社会に求められる人材ニーズに基づいた教育モデルカリキュラムの構築

高・専一貫プロジェクト	DXモデル構築
16か所	20か所

アウトカム（成果目標）
開発したモデルカリキュラム等を活用し、全国の専修学校が自らの教育カリキュラムを改編・充実

インパクト（国民・社会への影響）、目指すべき姿
専修学校と産業界、行政機関等との連携を発展させ、諸課題に対応した教育内容の充実を図ることで、地域の中核的な職業教育機関である専修学校の人材養成機能を向上

担当：総合教育政策局生涯学習推進課

anabuki college group

事業連携高等学校 8 校

県立高校 6 校

小豆島中央高校

高松東高校

香川中央高校

飯山高校

琴平高校

観音寺総合高校

私立高校 2 校

高松中央高校

尽誠学園高校

anabuki college group

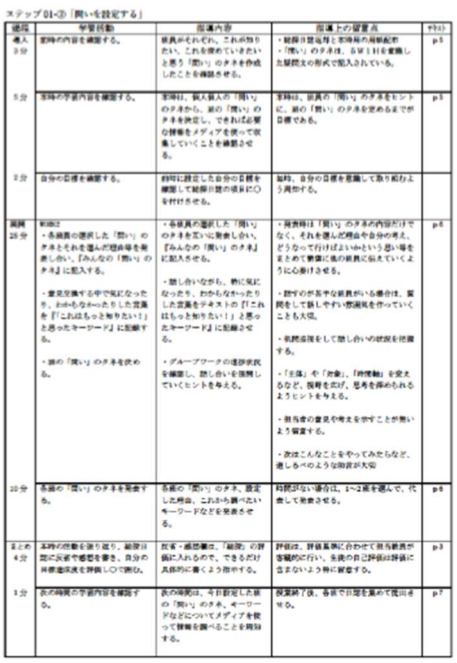
事業紹介動画（文部科学省提出資料）



anabuki college group

事業成果物（テキスト、テキスト指導案）





ステップ01-②「問いを設定する」

時間	学習活動	指導内容	指導上の留意点	ページ
導入 3分	前時の内容を確認する。	前時の内容を確認する。	・前時の目標設定と実際の活動内容の振り返り ・「問い」のタネは、5W1Hを意識した疑問文の形式で記入されている。	p5
5分	本時の学習内容を確認する。	本時は、個人個人の「問い」のタネから、班の「問い」のタネを決定し、できれば必要な情報をメディアを使って収集していくことを確認させる。	本時は、班員の「問い」のタネをヒントに、班の「問い」のタネを決めるまでが目標である。	p5
3分	自分の目標を確認する。	前時に設定した自分の目標を確認して前時の振り返りに○を付けさせる。	毎時、自分の目標を意識して取り組むよう周知する。	
展開 25分	前時に ・各班員の選択した「問い」のタネとそれを選んだ理由等を発表し合い、『みんなの「問い」のタネ』に記入する。 ・意見交換する中で気になったり、わからなかったりした言葉を『「これはもっと知りたい！」と思ったキーワード』に記録する。 ・班の「問い」のタネを決める。	・各班員の選択した「問い」のタネを互いに発表し合い、『みんなの「問い」のタネ』に記入させる。 ・話し合いながら、新に気になったり、わからなかったりした言葉をテキストの『「これはもっと知りたい！」と思ったキーワード』に記録させる。 ・グループワークの活動状況を確認し、話し合いを活発していくヒントを与える。	・発表時は「問い」のタネの内容だけでなく、それを選んだ理由や自分の考え、どうなって行けばいいかという思いをまとめて参加に他の班員に伝えていくように心掛けさせる。 ・話すのが苦手な班員がいる場合は、質問をして話しやすい雰囲気を作っていくことも大切。 ・前時振返をして話し合いの状況を把握する。 ・「主体」や「対象」、「時間軸」を変えるなど、視野を広げ、思考を深められるようヒントを与える。 ・発言者の意見や考えを否定することが無いよう留意する。 ・次はこんなことをやってみたらなど、進しろべのような助言が大切	p6
10分	各班の「問い」のタネを発表する。	各班の「問い」のタネ、設定した理由、これから調べたいキーワードなどを発表させる。	時間が無い場合は、1~2班を選んで、代表して発表させる。	p6
まとめ 4分	本時の活動を振り返り、総括目標に沿って感想を書き、自分の学習達成度を評価しつつ終わる。	良く・感想書は、「総括」の評価に入れるので、できるだけ具体的に書くよう指示する。	評価は、評価基準に合わせて担当教員が客観的に行い、各班の自己評価は評価に含まないよう特に留意する。	p3
1分	次の時間の学習内容を確認する。	次の時間は、今日設定した班の「問い」のタネ、キーワードなどについてメディアを使って情報を調べることを周知する。	授業終了後、各班で日程を集めて提出させる。	p7

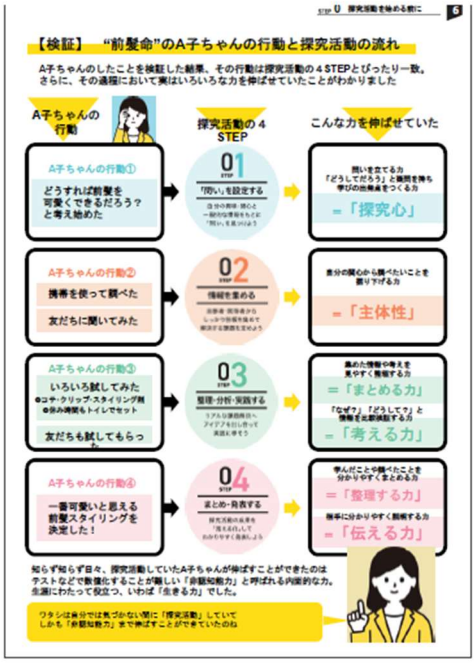
anabuki college group

事業成果物（テキスト、テキスト指導案）





事業成果物（テキスト、テキスト指導案）

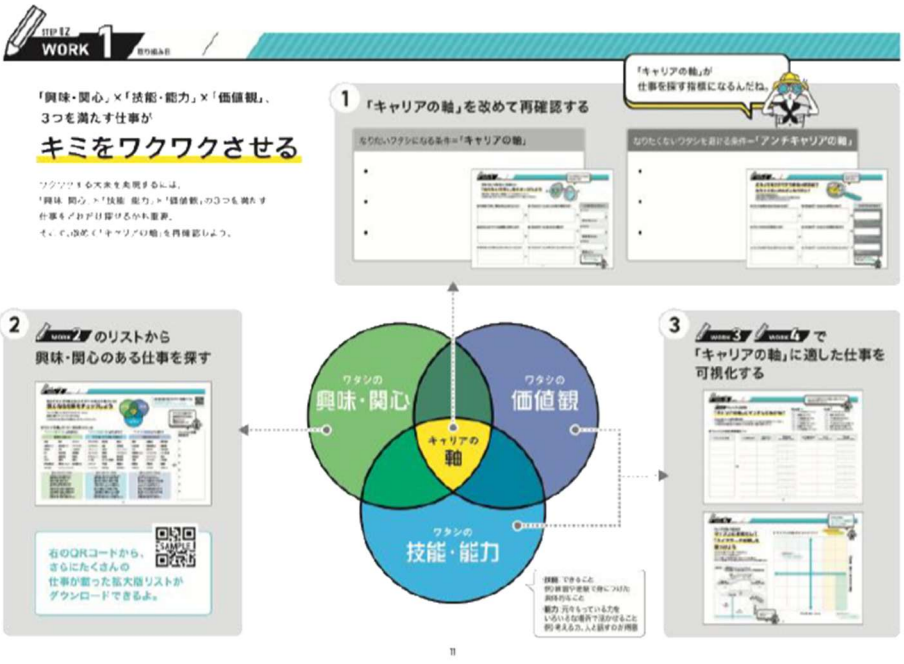




事業成果物（テキスト）



事業成果物（テキスト）



anabuki college group

事業成果物（テキスト）



anabuki college group

事業成果物（テキスト）



anabuki college group

事業成果物（テキスト）



事業成果物（テキスト）



anabuki college group

事業成果物（テキスト）



anabuki college group

事業成果物（テキスト）



anabuki college group

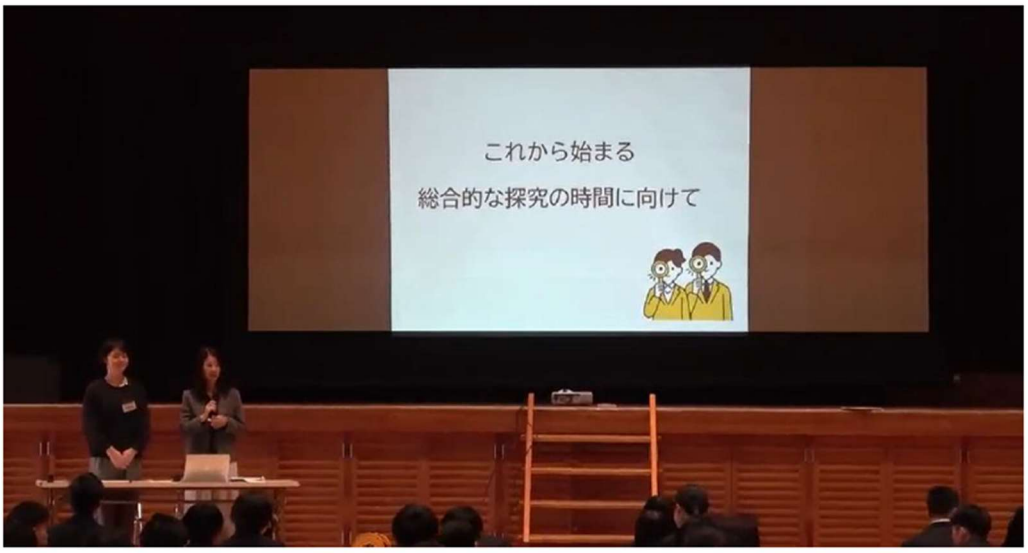
令和7年活動実績

企業・行政講話	１２回
穴吹学園講話・講座	１７回
専門学校教員派遣分野	６分野
連携校　教職員派遣	６４回
職業体験・職業理解	４回
非認知能力養成勉強会	４回



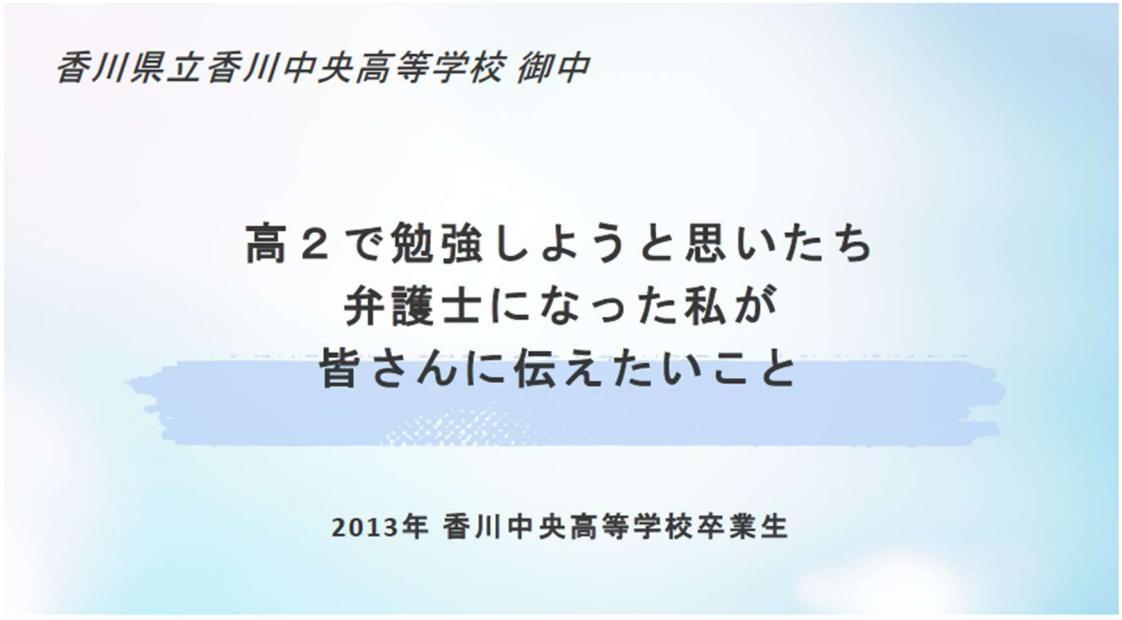
anabuki college group

実証授業「総合的な探究の時間」導入授業



anabuki college group

実証授業（キャリア教育講演会）
地元で活躍する社会人（卒業生）講話



anabuki college group

実証授業（キャリア教育講演会）
地元で活躍する社会人（卒業生）講話

08 今、高校生のみなさんに伝えたいメッセージ

今は情報が多すぎる、魅力的なものが有りすぎる。昔は情報が価値だったが、今は自分のキャパシティを理解して絞るという事のほうが大事。

anabuki college group

実証授業（キャリア教育講演会）
地元で活躍する社会人（卒業生）講話

08 今、高校生のみなさんに伝えたいメッセージ

色んな意見を参考にしながら自分で選ぼう。人の話を聞こう。コミュニケーションを取ろう。

（授業ごとに、先生に話に行けばよかったかな）

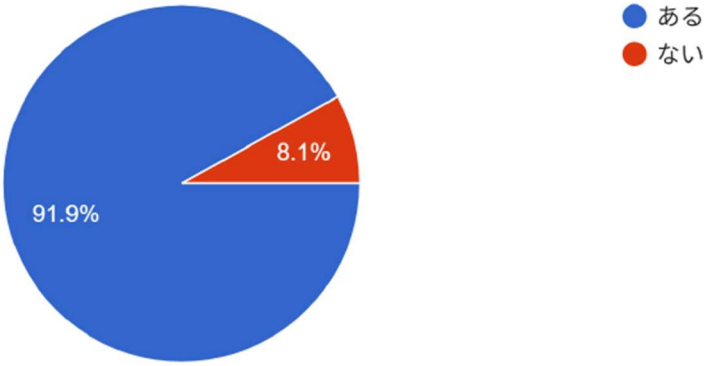
anabuki college group

実績報告（キャリア教育 講演会）

卒業生からの講話で自分の将来を選択する視野を広げる

（1）講演を聞いて自分の将来を考える上で参考になった話はありましたか？

248 件の回答



anabuki college group

実証授業 職業体験 香川県専各連合会 会員校協力

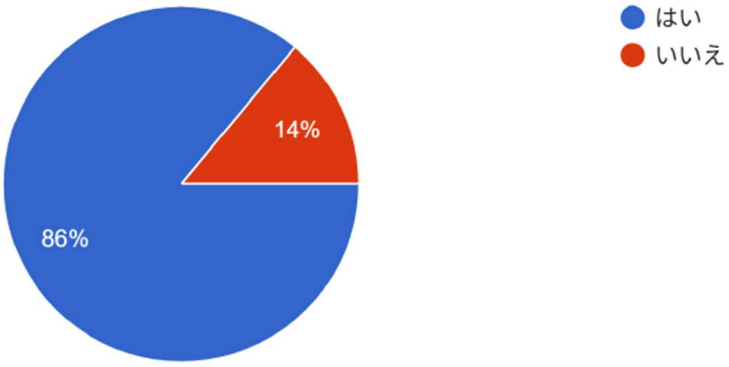


anabuki college group

実績報告（キャリア教育 職業体験）

あなたの将来の職業選択や進路選択に役立ちそうですか？

265 件の回答



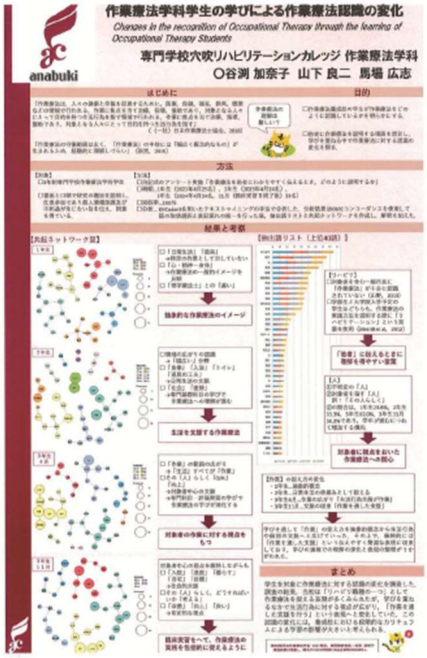
anabuki college group

香川県高等学校教育研究会探究部会参加



専門学校非認知能力養成事例（第59回 日本作業療法学会発表）





専門学校教育の新しいアプローチ！穴吹学園が力を入れる「非認知能力の育成」 - ウイナレッジ

事業紹介成果物（文部科学省提出教材）

事業紹介

https://www.anabuki.ac.jp/monka-kousen/dl/

教材ダウンロード

https://www.anabuki.ac.jp/monka-kousen/

（KBC 学園　インターナショナルリゾートカレッジ）

令和7年度　沖縄・観光分野における有機的高専連携プログラム開発・実証事業

専門学校と高等学校を接続し中核人材を育成　セミナー

学校法人　KBC学園
インターナショナルリゾートカレッジ

本日の報告内容

1．今年度並びに今後の事業継続に向け
2．プログラム開発における二つの柱
3．実態調査からみえる課題並びに打開策
4．Work based learning について

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

本日の報告内容

１．今年度並びに今後の事業継続に向け
２．プログラム開発における二つの柱
３．実態調査からみえる課題並びに打開策
４．Work based learning について

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

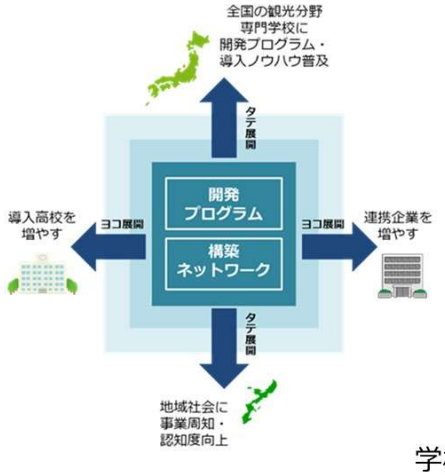
１．今年度並びに今後の事業継続に向け

関係部署ごとに行われている
取り組みを連携させ、長期的な視点からの
「人材育成プログラム」を構築する。

令和6年度報告より

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

1．今年度並びに今後の事業継続に向け



- ヨコ展開
  →地元の高校、企業
- タテ展開
  →全国展開
  →キャリア構築支援

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

本日の報告内容

1．今年度並びに今後の事業継続に向け
2．プログラム開発における二つの柱
3．実態調査からみえる課題並びに打開策
4．Work based learning について

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

２．プログラム開発における二つの柱

- 高校、専門学校を中心として更に中学生のためのキャリア構築支援プログラム
- 学校、企業、行政各部署をつなぐためのキャリア構築支援体制

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

２．プログラム開発における二つの柱



専門学校・企業・行政がプログラム開発を通して連携を図る

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

2．プログラム開発における二つの柱



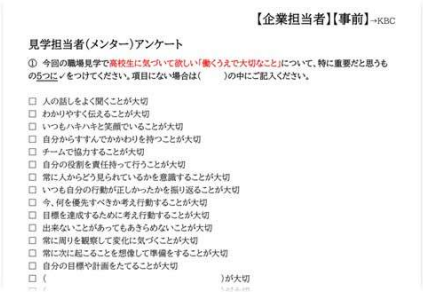


専門学校生が、中学校1年生に対して、キャビンアテンダントの職業体験を担当する

専門学校・企業・行政がプログラム開発を通して連携を図る

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

2．プログラム開発における二つの柱

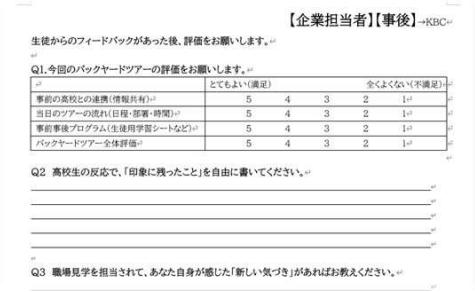


【企業担当者】【事前】→KBC

見学担当者（メンター）アンケート

① 今回の職場見学で高校生に気づいて欲しい「働くうえで大切なこと」について、特に重要だと思うもの5つに✓をつけてください。項目にない場合は（　　）の中にご記入ください。

- □ 人の話しをよく聞くことが大切
- □ わかりやすく伝えることが大切
- □ いつもハキハキと笑顔でいることが大切
- □ 自分からすすんでかかわりを持つことが大切
- □ チームで協力することが大切
- □ 自分の役割を責任持って行うことが大切
- □ 常に人からどう見られているかを意識することが大切
- □ いつも自分の行動が正しかったかを振り返ることが大切
- □ 今、何を優先すべきか考え行動することが大切
- □ 目標を達成するために考え行動することが大切
- □ 出来ないことがあってもあきらめないことが大切
- □ 常に周りを観察して変化に気づくことが大切
- □ 常に次に起こることを想像して準備をすることが大切
- □ 自分の目標や計画をたてることが大切
- □ （　　）が大切



【企業担当者】【事後】→KBC

生徒からのフィードバックがあった後、評価をお願いします。

Q1.今回のバックヤードツアーの評価をお願いします。

	とてもよい（満足）				全くよくない（不満足）
事前の高校との連携（情報共有）	5	4	3	2	1
当日のツアーの流れ（日程・部署・時間）	5	4	3	2	1
事前事後プログラム（生徒用学習シートなど）	5	4	3	2	1
バックヤードツアー全体評価	5	4	3	2	1

Q2　高校生の反応で、「印象に残ったこと」を自由に書いてください。

Q3　職場見学を担当されて、あなた自身が感じた「新しい気づき」があればお教えください。

企業見学担当者との目的のすり合わせや実施後の評価を共有

専門学校・企業・行政がプログラム開発を通して連携を図る

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

本日の報告内容

1．今年度並びに今後の事業継続に向け
2．プログラム開発における二つの柱
3．実態調査からみえる課題並びに打開策
4．Work based learning について

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

3．実態調査からみえる課題並びに打開策

すでに進路決定をした専門学校の学生から
高校時代に本当は必要だった進路支援
を振り返ってもらい、プログラムに反映させる。

「専門学校生のキャリア教育実態調査」
（グループ面接）を実施

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

３．実態調査からみえる課題並びに打開策

「専門学校生のキャリア教育実態調査」

日程：令和７年９月～１０月にかけて

対象：沖縄県内専門学校　４校
・情報系　・美容系
・保育系　・ビジネス系
１年生中心に聞き取り調査

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

３．実態調査からみえる課題並びに打開策

●自身のキャリアに対し

①積極的に向き合い、活動した

②標準的な活動を行った

③消極的又は周囲の意見に影響を受けた

３つのグループに分けて聞き取り

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

3．実態調査からみえる課題並びに打開策

●学校選択におけるグループごとの特色

①積極的に向き合い、活動した

まずは自分のキャリアプランを立て、自分のプランにあったことが学べるか調べる

中学校からキャリアを考える授業があると、高校や高校のコース選択で自分に合った学習ができる

進学ガイダンスの企業版のキャリア説明会、職場見学会などがあればよいと思う。

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

3．実態調査からみえる課題並びに打開策

●学校選択におけるグループごとの特色

③消極的又は周囲の意見に影響を受けた

高校の先生の紹介や指導が役に立った

先輩の話が役に立った

やりたいことが見つからない高校生は、見つけ方探し方を教えてもらうとよい。

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

３．実態調査からみえる課題並びに打開策

●学校選択におけるグループごとの特色

①積極的に向き合い、活動した

明確な目標があり、俯瞰的、長期的視点から進路を決定

③消極的又は周囲の意見に影響を受けた

短期間での目標設定から進路決定

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

３．実態調査からみえる課題並びに打開策

●グループに共通した声

①人を介しての情報収集

②社会人・先輩との接点確保

現場で働く人の普段見る事ができないリアルを見たかった（65.2%）

現場で一緒に働いてみたかった（47.1%）　令和6年度大学生・専門学校生アンケート調査より

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

本日の報告内容

1．今年度並びに今後の事業継続に向け
2．プログラム開発における二つの柱
3．実態調査からみえる課題並びに打開策
4．Work based learning について

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

4 .Work based learning について

● Work based learning の特徴

・「体験する」-「振り返る」-「計画をたてる」-「実践する」行動変容を軸におきます
・学習しているカリキュラムに関連した学習目標を立てます
・児童生徒・学生が希望するキャリアや興味のある業種職種を実施します
・可能な限り幅広い業界や職業に触れることを目指します
・企業と学校の分担と役割を明確にします
・児童生徒・学生は事前学習・事後学習を設けます

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

4 .Work based learning について

●Work based learning　の特徴



それぞれの学習を目的に応じて連動させる

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

4 .Work based learning について

●Work based learning　生徒のメリット

家族以外の職業人ロールモデルを持ちます

職場見学や体験に基づいたキャリアプランを設定します

働くことの意義・喜びをつかみます

自分に向いていることを考え、興味のあるものを調べるきっかけになります

職業人と自分を比較し自分に足りないスキルを自覚し、成長につなげます

カリキュラムとキャリアの関連性を認識し、学業のモチベーションを高めます

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

4 .Work based learning について

●Work based learning　学校のメリット

学校と地域とのつながりを構築します

学校での学びをキャリアと関連づけることができます

教員のキャリア体験機会になります

職場を学習環境として活用することができます

遠隔小規模校は地元にない企業の様子を体験することができます

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

4 .Work based learning について

●Work based learning　企業のメリット

学校や児童生徒・学生と良好な関係が築けます

将来の社員候補になります

社員のリーダーシップスキルを強化します

社員のやる気ややりがいにつながります

児童生徒・学生の考え方や思考を知ることができます

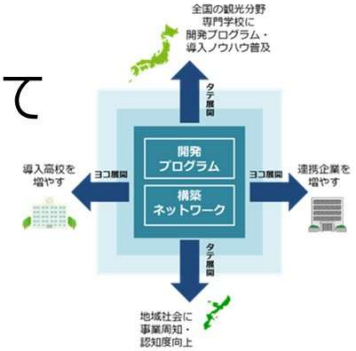
地域貢献ができ、知名度や好感度が向上します

学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

4 .Work based learning について

● 事業全体をて通し我々が目指すもの

プログラム開発・運用を通して
学校、企業、行政が
有機的に連携する。



学校法人　KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ

（沖縄専門人材開発研究会）

令和7年度　文部科学省委託
専修学校による地域産業中核人材養成事業
専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証

多分野での高・専連携を実現する
一貫型職業教育プログラムの開発・実証
【事業取り組み紹介】

一般社団法人　沖縄専門人材開発研究会

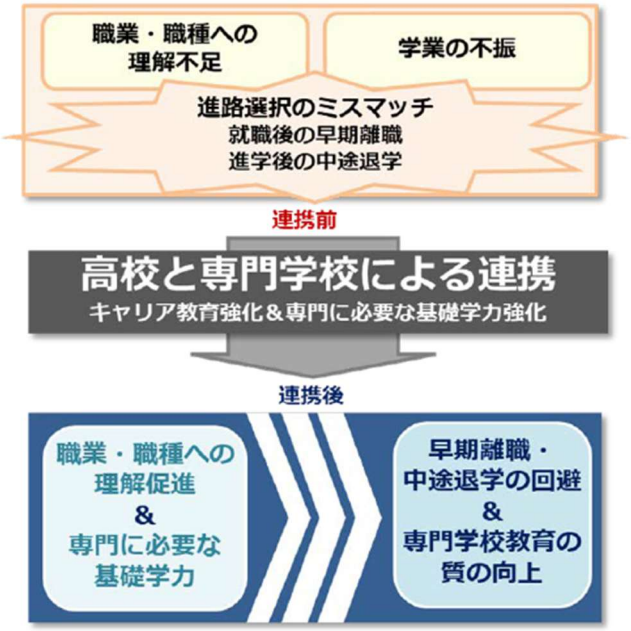
目次

▶　事業概要

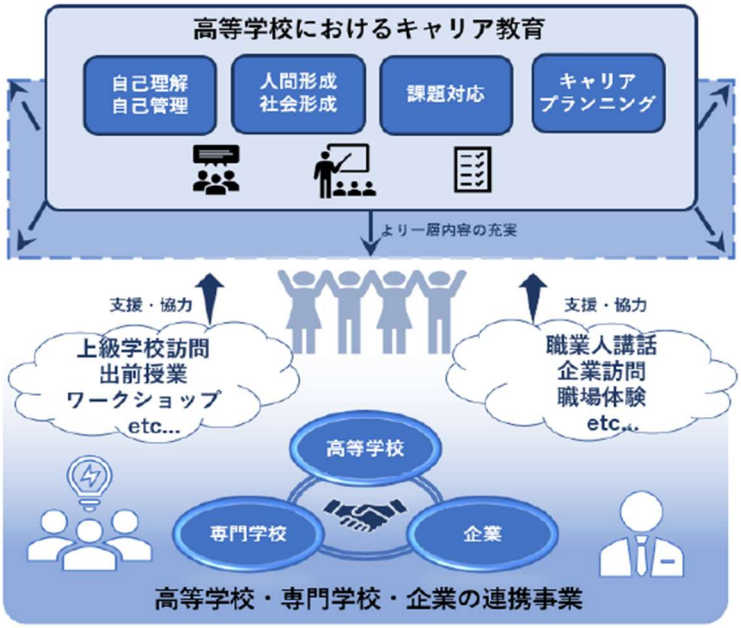
▶　令和７年度　連携授業紹介

▶　今後の展開

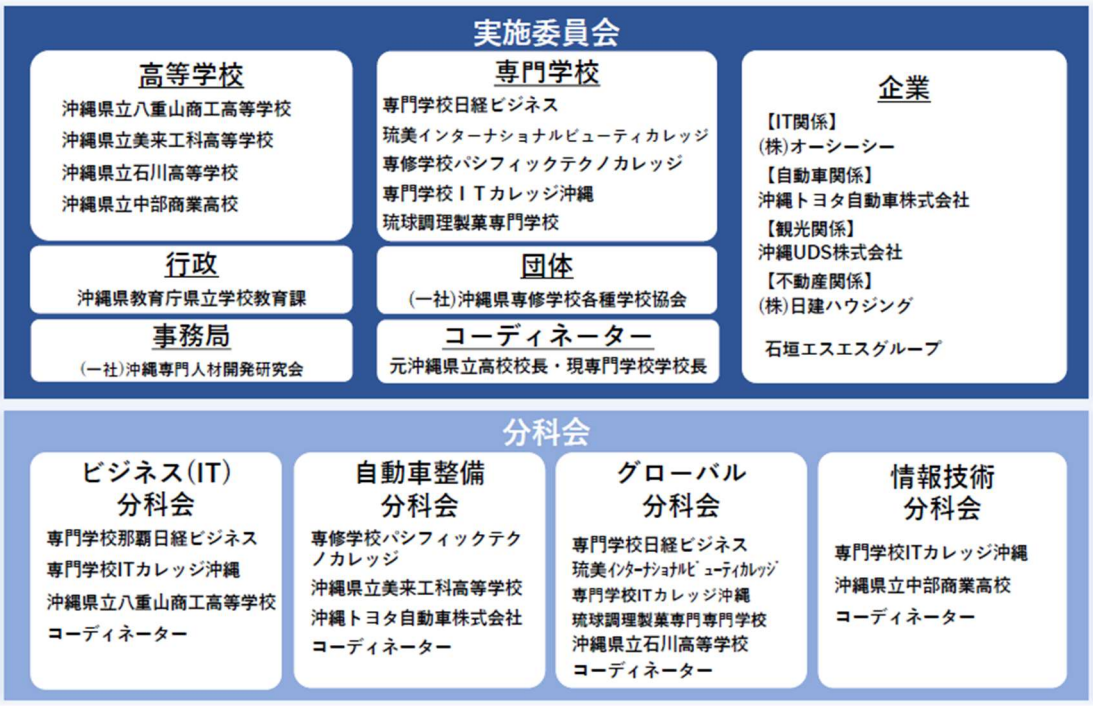
事業概要　事業背景



事業概要①　高等学校におけるキャリア教育の充実



事業概要②　高等学校・専門学校・企業/団体等連携構造



令和７年度　連携授業紹介

令和７年度　連携授業概要一覧

	ビジネス(IT)分科会	グローバル分科会	情報技術分科会
連携主体校および企業	○高等学校： ・沖縄県立八重山商工高校 ○専門学校： ・専門学校那覇日経ビジネス ・専門学校ITカレッジ沖縄	○高等学校： ・沖縄県立石川高校 ○専門学校： ・専門学校日経ビジネス ・琉美ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙﾋﾞｭｰﾃｨｶﾚｯｼﾞ ・専門学校ITカレッジ沖縄 ・琉球調理製菓専門学校	○高等学校： ・沖縄県立中部商業高校 ○専門学校： ・専門学校ITカレッジ沖縄
対象学年	1～3年生	1～3年生	1～3年生
対象科目	「ビジネス基礎」 「ソフトウェア活用」 「総合実践」	「情報Ⅰ」 「総合的な探究の時間」	「ビジネス・コミュニケーション」 「課題研究」「総合実践」 「ネットワーク活用」
連携概要	1年生： コミュニケーション、マナー、 職業人講話、フィールドワーク 2年生： データ分析、卒業生講話、映像制作 3年生： 動画制作	1年生： キャリア基礎、職業人講話、 映像制作 2年生： マナー、企業訪問 、プレゼンテーション 3年生： 専門学校生講話、進路に関するプレゼンテーション、マナーなど	１年生： ビジネス基礎 ２年生： ソフトウェア活用 ３年生： 動画制作
連携授業総コマ数	1年生：8コマ 2年生：10コマ 3年生：6コマ(専門学校参加)	1年生：24コマ 2年生：12コマ 3年生：9コマ	1年生：8コマ 2・3年生：6コマ

②実証報告（１）ビジネス（IT)分科会

▶連携授業計画

▸１年生（約30名）：『ビジネス基礎』

	テーマ	内容	コマ
①	ビジネスマナー	講義・ワーク・実践	1
②	ビジネスコミュニケーション	講義・ワーク・実践	2
③	職業人講話	事前調べ学習／講話／振り返り	10
④	マーケティング	講義・ワーク	1
⑤	フィールドワーク	フィールドワーク／振り返り	6
		総コマ数	20

▸２年生（約30名）：『ソフトウェア活用』

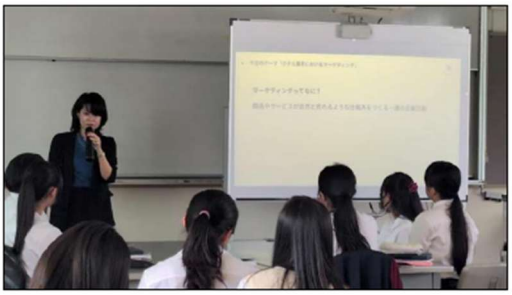
	テーマ	内容	コマ
①	表計算ソフトウェアの活用	Excelを活用した進路状況分析グループ学習	10

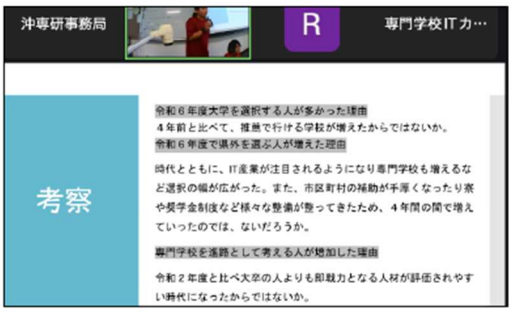
▸３年生（約30名）：『総合実践』

	テーマ	内容	コマ
①	動画制作	石垣島のPR動画をグループで制作。	30

授業時の様子（1～3年生）

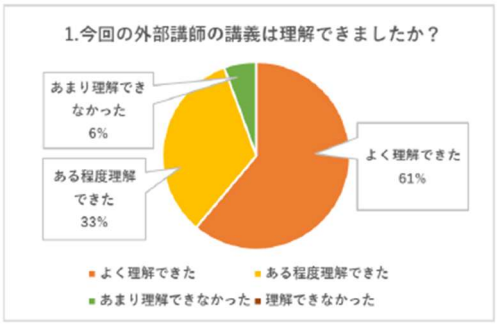


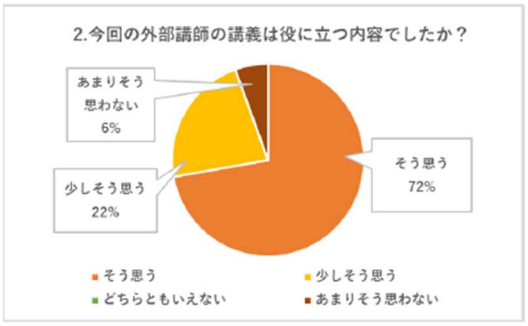


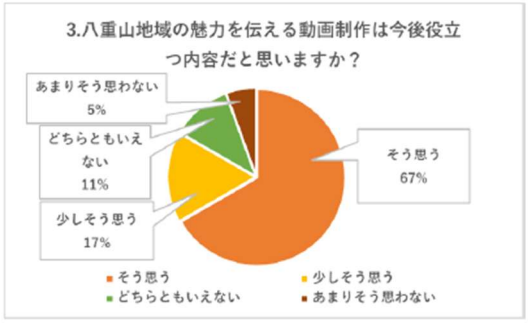




授業後アンケートの一部〈３年生：事後アンケート〉







感想一部抜粋（自由記述）

- 今回の授業で動画の取り方のコツや動画の編集の仕方を学ぶことができてよかった。今回学んだことを今後の動画制作に活かせるようにしたい。
- 動画の撮り方が自分は画面が揺れたりどこで区切っていいかわからに部分が沢山あり、**高専連携をやって最初と最後の3秒は停止するとアドバイスをもらってやってみると二年生のころよりきれいに見やすく動画が取れ、いい勉強になりました。**
- 授業でならった、写真撮るときは脇をしめてとるときれいに撮れると習い実際に行ってみるとぶれることなくきれいな写真、動画を撮影することができた。しっかりアドバイスを取り入れることでより良い学校紹介動画が作成できると思った。
- 動画を作成するにあたって必要な素材の上手な撮り方や見る人がわかりやすい撮り方を知れてよかったです。またほかの学校の紹介動画をみて自分たちでアフレコや声を足していたり、テロップだけだったり、英語で書いていたりいろんな工夫の仕方があると感じました。
- 去年の授業で行った動画制作では、動画の構成や見やすさなどをあまり考えずに作っていた部分もあったので、映像を撮るときは広い範囲からどんどん範囲を狭くしていくことや脇をしめて撮影をすることなどこれから動画制作を行っていく中で大切なことを学ぶことができたので良かったと思います。動画にあったBGMの選び方やフォントの選び方なども知りたいなと思いました。

②実証報告（２）グローバル分科会

▶連携授業計画

▸ １年生（約110名）：『情報Ⅰ』『総合的な探究の時間』

	テーマ	内容	コマ
①	キャリア基礎	オリエンテーション／コミュニケーション／表現方法／マナー	12
②	職業人講話	職業人講話	4
③	企業訪問発表会鑑賞	2年生の企業訪問発表会に参加	2
④	映像制作	コンセプト決め／撮影・素材収集／映像編集／発表会	40
⑤	振り返り	年間通しての振り返り	1
		総コマ数	59

▸ ２年生（約120名）：『総合的な探究の時間』

	テーマ	内容	コマ
①	チーム＆テーマ決め	チームで企業訪問を通したテーマを決定	1
②	マナー教育	企業訪問に関するマナー	1
③	事前調べ学習	訪問先に関する事前調べ学習	1
④	企業訪問	関心分野の企業に訪問	5
⑤	振り返り	企業訪問振り返り、まとめシート作成	2
⑥	発表会	企業訪問を通じて学習した内容を発表	2
		総コマ数	12

②実証報告（３）グローバル分科会

▶連携授業計画

- ３年生（約120名）：『総合的な探究の時間』

	テーマ	内容	コマ
①	専門学校生講話	専門学校生による進路選択に関する講話	2
②	マナー講座	面接用のマナー講座	1
③	発表資料作成	PowerPoint形式で発表資料の作成	3
④	発表	PowerPointで作成したプレゼンテーション資 料を投影しながら発表。	3
⑤	合格体験発表（仮）	個人プレゼンから選抜。1.2年生の前で発表。	1
		総コマ数	10

授業時の様子（１～３年生）

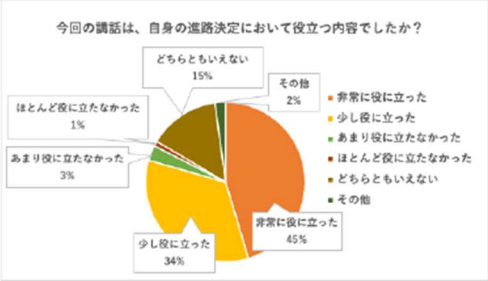


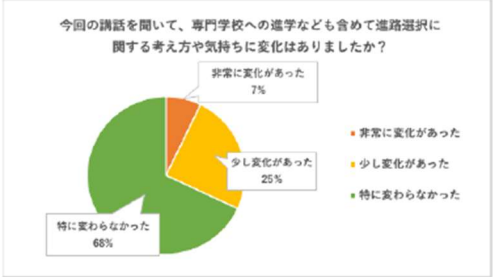


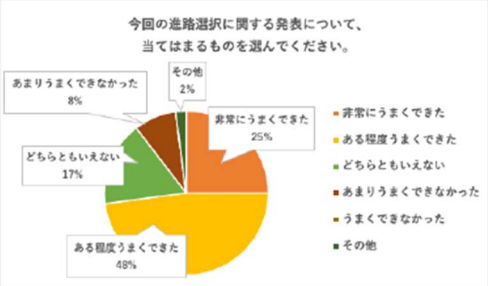


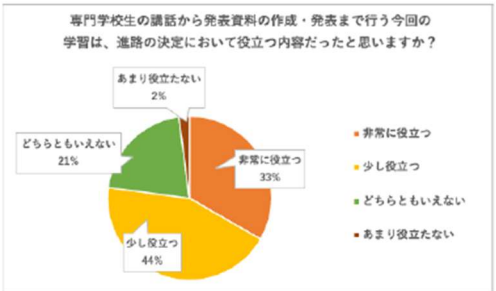


授業後アンケートの一部〈３年生：授業後アンケート〉









感想一部抜粋（自由記述）

- **進路活動に役立てることができた。**
- 自分の進路先をしっかりと考える時間になった。
- **今まで以上に進路活動に、主体的に行動できるようになった**し、選択肢はたくさんあり、**可能性はひとつだけじゃないことを再認識**できました。
- 自分の行きたい大学や専門学校の事を**調べてもっと詳しくなってさらに興味が出てきたので作成して良かったな**と思いました。
- 進路選択方法を様々な視点からの考え方を知る事があまり良くできなかったのでもっと発表や作成をうまくできるようにしたいと思った。
- **自分の進路を明確化**できた。
- 進路について考えたり、自分のキャリアデザインや将来のプランを考えて未来のことだから難しいのもあったけど、自分のためになる時間になってよかった。

②実証報告（４）情報技術分科会

▶連携授業計画

▸１年生（約120名）：『ビジネス・コミュニケーション』

	テーマ	内容	コマ
①	ビジネスマナー	１コマ目　場面に応じた挨拶、お辞儀、身だしなみ ２コマ目　歩き方、座り方、言葉遣い、名刺交換	8

▸２・３年生（約80名）：国際ビジネス科『総合実践』
情報ビジネス科『課題研究』

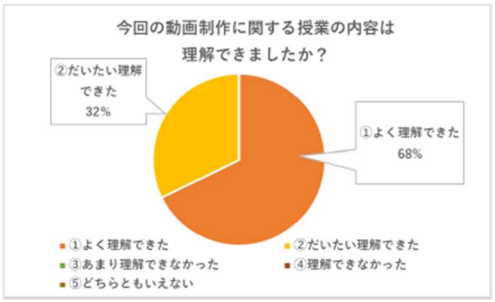
	テーマ	内容	コマ
①	動画制作	映像制作における基本的な考え方や活用ソフトの実践。 【映像テーマ】 情報ビジネス科：学校の魅力 国際ビジネス科：修学旅行の思い出	6

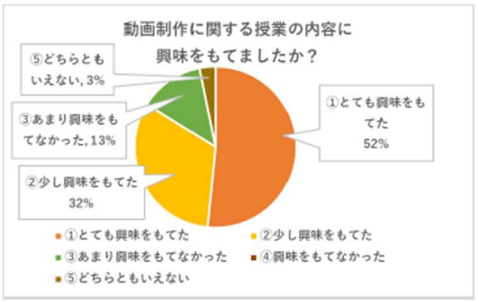
授業後時の様子（3年生）

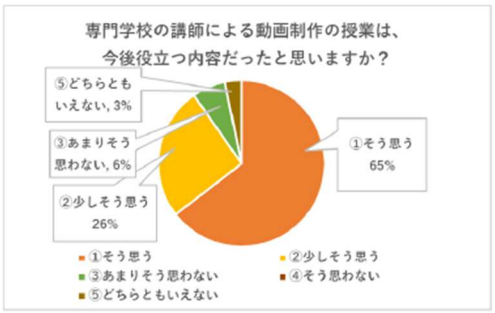


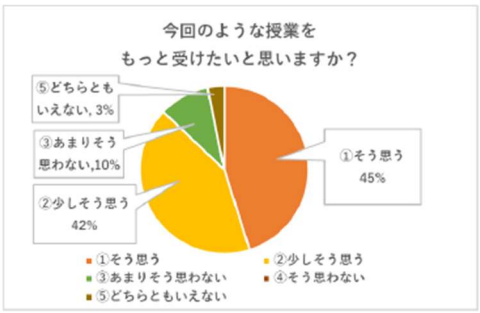



授業後アンケートの一部〈３年生〉









感想一部抜粋（自由記述）

・昔キャンバ使いにくいなと思ったけど**今日の授業を受けてやり方がわかりました。**
・**楽しく動画編集について学ぶことができた。**機会があればまたやりたい
・台湾のプランなども含めてどんな映像かを想像できて楽しかったです
・実際に動画を作ってみてコツや作り方が分かりました
・触れた事のあるアプリだったから、使いやすかったです、編集の仕方などを知れたから、
日常的にも使えそうだなと思いました。
・これから動画編集する時とかスキルを磨きたい時はこのアプリを使っていこうと思います。
ありがとうございました。
・Canvaの使い方をマスターする事で色んな場面で役に立つことがわかったし、動画作成において
大切な事は自分ウケではなく視聴者の事を考えて作成する事が重要と分かりました。
私もCanvaを活用して素敵な動画を作りたいと思います。
・動画作成は難しいと思ってたけど、意外と簡単にすることが出来た！楽しかった
・たまにインスタであげたりするので、今よりも上手くなりそうな知識を少しは身に付けられた
と思うので良かったし、仕事にも何かしら役立つと聞いたので、**この事を活かして将来もし使う
ようなことがあったら、この二時間分の授業で学んだことを使用していきたい**です!

今後の展開

○実証講座

- **令和７年度**：現在も進行中。
- **令和８年度**（予定）：
  - 高校段階⇒今年度までの実績をベースに分科会などで調整し実施予定。
  - 専門学校段階⇒事業参画の専門学校を中心として調整し実施予定。

○開発（モデル教材、教員用ガイド）

- **モデル教材**：連携授業における教材を基に、事業終了後を見据えたモデル教材を開発。
- **教員用ガイド**：高専連携授業実施に向けた準備やワークシートなどの例を記載。

【モデル教材例：＜左＞ビジネス（IT）＜右＞自動車整備】









【教員用ガイド例】







